

学生の国際共修のための理論 セミナーと実践プログラムの展開

国際教育交流センターアドバイジング部門

川 平 英 里

学内における国際学生共修プログラムを発展させながら実施するとともに、2018年度は初めての試みとして、国際交流実践の理論的基盤となる知識を提供するセミナーを開催した。

スモールワールド・コーヒーアワー5回、ディスカッショングループ14回、プレゼンテーションアワー2回等を学生組織との連携で継続的に実施し、留学生・日本人学生等、のべ約400人（コーヒーアワー、ディスカッショングループ、プレゼンテーションアワー分）が参加した。また新たに国際交流・多文化交流の理論編セミナーを4回実施し、うち1回は立命館大学の筆内美砂氏の講義・ファシリテーションによって行なった。さらに名古屋大学イスラム文化会の学生たちと連携して「イスラムにおける多様性」のテーマで講演会を行い、ムスリム・非ムスリム、留学生・日本人学生等、100名以上が参加した。

国際交流を主導する学生たちにとっては、プログラムを企画し運営する経験を積むだけでなく、関連する理論を学ぶ機会を得ることで、これまでの実践を多角的に振り返りながら、今後の活動の継続・発展を検討することができた。また、学内の多様な学生たちが、自分に合う内容や形式のプログラムに参加することで、互いに知り合い、交流し、学ぶきっかけを継続的に持つことができた。

グローバル人材育成の観点からさらに重要性が増しているこれらの共修プログラムは今後も様々な工夫をし、多様な人々と協働しながら継続し、発展させていくことが必要である。

〈プロジェクトメンバー〉

田中京子、高木ひとみ

伊藤ゆり、柴垣史、安部伸子

国際学生寮における アクティブラーニング プログラムの開発と実践

国際教育交流センター

田 中 京 子

名古屋大学国際学生寮（東山、山手、妙見、留学生会館、猪高宿舎）において、大学がRA（レジデント・アシスタント）と連携してアクティブラーニング教育プログラムを開発し実践することを目的として、2017年度に引き続いて教育奨励費を申請し、実施した。

2018年度は国際学生寮のRAと関係者が集まって学び意見交換をする研修会を5回持ち、関係組織や専門家の協力を得ながら緊急対応やオリエンテーション企画、防災等について学んだ。そのうち2回はRAが主導してアクティブラーニング形式による研修を行なった。

先進的なRA活動を行なっている一橋大学から担当教員1名とRA2名を招聘し、当大学でのアクティブラーニング形式の研修について紹介いただき、関係者で実際に研修を経験し、意見交換をした。また、実践の現場である本学各国際学生寮においては、入居者を対象にRAが主導して防災の知識伝達および避難口・避難場所、災害対策用機器の確認などを行ないながらオリエンテーションを行った。この2年間の事業により、防災を視野に入れたオリエンテーションを実施して入居者同士の交流を促進するという体制ができつつある。

2017年度からのプロジェクトにより、一般学生のRAへの関心が高くなり、RA募集に対して多くの優秀な学生が応募するようになった。その結果、やる気のある優秀なRAたちと、自律的な寮内アクティブラーニングの開発に着手することができた。本プロジェクトは5年計画で行なっており、2019年以降は、新設のインターナショナルレジデンス大幸の運営状況もみながら全体の教育体制を整備することが必要である。

〈プロジェクトメンバー〉

アドバイジング部門：和田尚子、川平英里

高木ひとみ、小川美登利

教育交流部門：谷口紀仁